

2. 学校施設の目指すべき姿

学校施設は児童・生徒にとっては学習の場であり、日々の多くの時間を過ごす生活の場でもあります。地域住民にとっては災害時の避難所、生涯学習の場、屋内運動場の開放等によるスポーツの活動拠点になります。このような機能を持つ学校施設の目指すべき姿を、安全性、快適性、学習活動への適応性、地域住民への適応性、環境への適応性、地域拠点の6つの観点から以下のとおりに定めます。

■安全性

日常生活における安全性の確保、自然災害に対応できる設備整備

児童・生徒にとって学習の場であり生活の場である学校施設は、安全・安心に過ごせる教育環境を整備する必要があります。老朽化が進む校舎には改修・改築工事が求められます。また、児童・生徒を犯罪から守るため、防犯ブザーや防犯灯の設置が求められます。

さらに、学校施設は災害時に避難所の役割を担うため、自然災害に対応できる設備を整備する必要があります。平成28年4月の熊本地震では、本町において震度5弱を記録しました。最近では大型台風やゲリラ豪雨による被害が全国各地で発生しています。ここ数年懸念されている南海トラフ地震が起きた場合は、本町は津波の高さが最大で3.4mとなる試算結果もあります。このような自然災害に備えて、避難所としての機能（躯体の耐震性、非常時の通信体制、自家発電装置の設置など）を整備することが考えられます。

■快適性

トイレの洋式化100%、バリアフリーの推進

近年、本町では学校トイレの洋式化を進めています。家庭では洋式トイレが一般的であり、学校トイレとギャップがあります。このギャップを解消するためにも、年次的な改修を進め、小中学校のトイレの洋式化100%を目指します。

学校施設を避難所として利用する際に、高齢者や障害を持つ方にも使いやすいようバリアフリー化を推進します。

■学習活動への適応性

小中学校の統合再編、情報教育に対応したICT環境

「長島町第2次総合振興計画」にもあるとおり、小中学校の統合再編を推進します。小中学校で複式学級を導入しているのは12校中3校です。中学校では免許教科外教科担任を兼任するなど教員の負担も大きく、一部の科目においては授業の質の確保が難しい状況です。学校の統合再編により、教員の確保、授業の質の確保、効率的な学校施設の改修、改築が期待できます。

また、近年ICT環境の整備が求められています。今後のデジタル社会に対応できる人材育成のためにもICT環境を整備していきます。

■住民活動への適応性

生涯学習の機会・場の提供

音楽室や家庭科室といった学校特有の教室を開放することで、さまざまな住民活動の場を提供することができます。町内の芸術活動に適した施設は限られていますが、学校施設はほとんどの芸術活動に対応することができます。町内施設に空きがなかった場合には、学校施設を利用できるような仕組みをつくっていきます。

■環境への適応性

環境に配慮した学校施設の整備

昨今の地球温暖化といった環境問題を受け、高効率な照明設備、冷暖房の効率性の向上が求められています。また、自然採光や自然エネルギーの活用など環境負荷の低減を図る施設整備が求められています。

■地域拠点

施設整備の推進

地域に開かれた学校とするため、保護者や地域住民が訪れやすい環境とし、特に屋内運動場は学校開放事業でも地域住民の利用率が高いことから、放課後や夜間の安全な利用を考慮した施設整備を行う必要があります。